

2020年6月19日
京成電鉄株式会社
北総鉄道株式会社

台車の緊急点検実施について

京成・北総の同一構造台車の異常なしを確認しました

6月12日に京成線青砥駅構内において発生した脱線事故について、事故原因は現在調査中ですが、脱線車両の台車にき裂が認められたことから、京成電鉄、北総鉄道^{※1}では、同一構造の台車^{※2}(256台車)におけるき裂確認箇所(側ばり)について、目視等による緊急点検を6月13日までに、非破壊検査(磁粉探傷検査)による詳細な点検を6月19日までに実施し、異常のないことを確認いたしました。

なお、その他の全車両(1116台車(京成)、64台車(北総))においても、今後逐次、非破壊検査(磁粉探傷検査)による詳細な点検を行います。

※1 脱線した車両は北総鉄道所属の車両で京成電鉄から賃借したものの

※2 対象車両(同一構造の台車)

京成電鉄所属 3700形(1～5次車) 8両編成 8編成 計64両 (128台車分)

北総鉄道所属 7300形、7800形、9100形、9800形

8両編成 8編成 計64両 (128台車分)

この度は、ご利用のお客様をはじめ多くの方に多大なるご迷惑・ご心配をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。事故原因については、現在、運輸安全委員会において調査が行われておりますが、当社としても、原因の究明に向け運輸安全委員会に協力してまいります。

また、当社としても(公財)鉄道総合技術研究所の協力のもとで原因究明と再発防止対策に取り組んでまいります。



ブラックライト

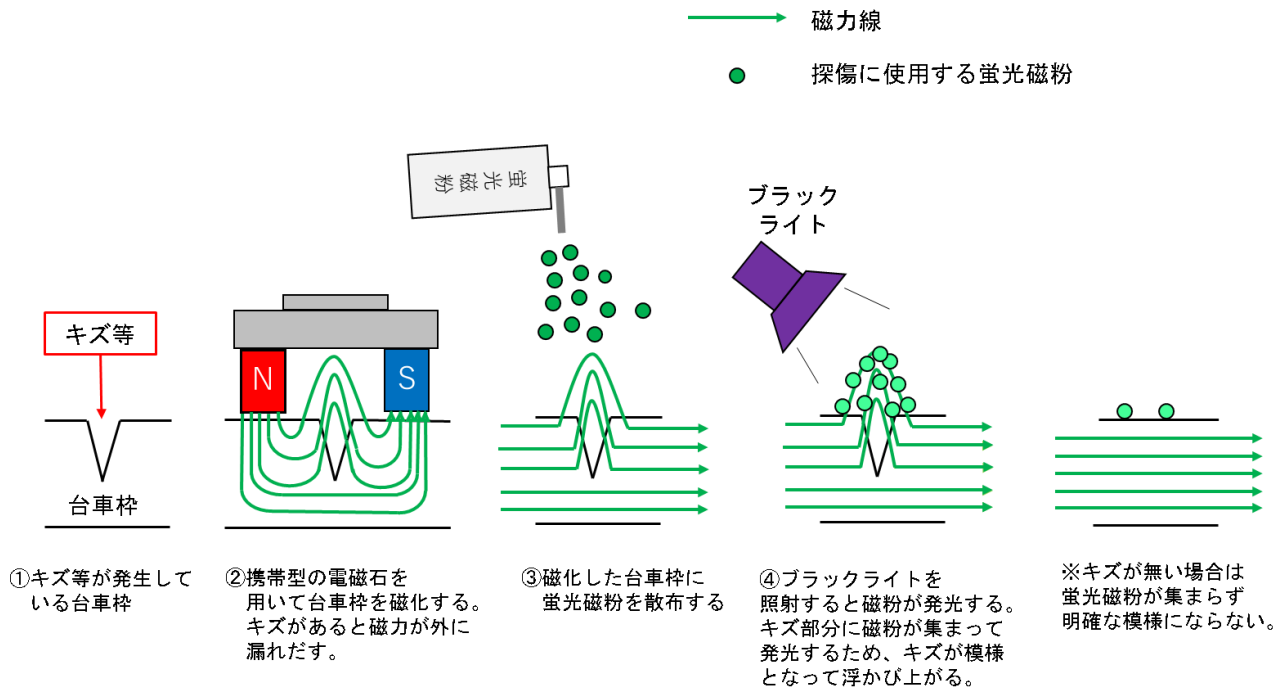
蛍光磁粉液

携帯型の電磁石

側ばり部における非破壊検査(磁粉探傷検査)の様子

《磁粉探傷検査の概要》

磁粉探傷検査は非破壊検査の一つで、台車枠を磁化し、その試験体の表面に蛍光磁粉液を散布すると、蛍光磁粉液が磁力によりキズ等の部分に吸着され、ブラックライトを当てると蛍光磁粉液が反応し、台車枠の表面に存在する微細なキズ等の観察が可能となる方法です。



以上